

# 砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

## セミナー

キム シン ジョン

# 金時鐘の「新潟」を新潟で読む

在日朝鮮人詩人・金時鐘が一九七〇年に刊行した長篇詩集「新潟」は、在日朝鮮人の北朝鮮への「帰国事業」を日本が官民あげて支援した五〇年代末より構想され、日本語による詩作が指弾され、北朝鮮への渡航が拒否された時代に書きつがれ、「発狂しなかったのが不思議だった」ほどの精神的苦境期に完成しながら、公表まで約十年を要した、複雑な構成をもつ叙事詩です。分断された祖国を隔てる国境という壁を突き抜く道を、日本という場所で、詩的想像力によって生み出そうとしたこの壮絶な試みを、帰国事業の受け入れ港であり、詩の舞台となつた土地、新潟で読み解きます。



金時鐘 詩集「新潟」1970/構造社

誰も知らない。

ぼくを抜け出た

すべてが去った。

茫洋とひろがる海を

一人の男が

歩いている。

ただひとつの  
国が  
なま身のまま  
等分される日。  
人は

こぞって

死の白票を

投じた。

町で

谷で

死者は

五月を

トマトのように

熟れ

ただれた。

捕えた数が

奪つた命を

はるかに

上まわつたとき

海への

撤出は

始まった。

露地で

割られた

メガネから

蛭を

こぼし

落とし

妄執が叫ぶのだ！

マテエ……

オレア——ヤメヤア——

チョウセン

ヤメヤア——！

目に映る

通りを

道と

決めてはならない。

誰知らず

踏まれてできた

筋を

道と呼ぶべきではない。

海にかかる

橋を

想像しよう。

坑道を

考えよう。

意志と意思とが

かみ合い

天体をもつなく

ロケットの

Seminar  
2016

1

ま新しい潟をもとめて——いま金時鐘を新潟で読むこと

9月9日(金)19:00~20:30

講師：細見和之(詩人・京都大学教授・大阪文学学校校長・ドイツ思想)

2

長篇詩集「新潟」と「帰国事業」の時代

9月16日(金)19:00~20:30

講師：森沢真理(新潟日報論説編集委員室長)

3

沖縄で読む「新潟」と作品が生まれるまで

9月24日(土)15:00~16:30

講師：阪田清子(美術家) 聞き手：大倉宏(砂丘館館長)

4

ラウンドテーブルトーク「金時鐘の「新潟」を新潟で読む」

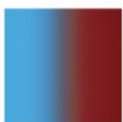
9月27日(火)13:30~15:30

お話：金時鐘＋郭炯徳(カクヒョンドク 韓国語訳「新潟」翻訳者・韓国科学技術院 KAIST 教授)  
＋阪田清子＋藤石貴代(新潟大学准教授・朝鮮近代文学)

毎回ごとのご参加も可能です。詳細は裏面に。

主催：砂丘館

(指定管理者：新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体)



水と土の  
文化創造  
都市

Creative City of Water and Land - Niigata

# セミナー 金時鐘の「新潟」を新潟で読む

[1]  
ま新しい潟をもとめて——いま金時鐘を新潟で読むこと  
9月9日(金)19:00~20:30 講師:細見和之

[2]  
長篇詩集「新潟」と「帰国事業」の時代  
9月16日(金)19:00~20:30 講師:森沢真理

[3]  
沖縄で読む「新潟」と作品が生まれるまで  
9月24日(土)15:00~16:30 講師:阪田清子 聞き手:大倉宏

[4]  
ラウンドテーブルトーク「金時鐘の「新潟」を新潟で読む」  
9月27日(火)13:30~15:30  
お話:金時鐘+郭炯徳+阪田清子+藤石貴代

## 金時鐘(キム・シジョン)

詩人。1929年釜山生まれ。済州島で育つ。48年の済州島四・三事件を経て来日。50年頃から日本語による詩作を始め、53年詩誌『デンダレ』創刊。在日朝鮮人団体の文化関係の活動に関わるが、運動の路線転換以後、批判を受け組織運動を離れ、日本語による詩作を中心に、批評、講演などの活動を続ける。詩集に『地平線』(1955/デンダレ発行所)、『日本風土記』(1957/国文社)、長篇詩集『新潟』(1970/構造社)、『光州詩片』(1983/福武書店)、『原野の詩』(1991/立風書房)、『化石の夏』(1998/海風社)、『失くした季節』(2010/藤原書店 高見順賞受賞)など。2015年四・三事件の記憶をはじめ綴った自伝的回想記『朝鮮と日本に生きる』(2015/岩波書店)で大佛次郎賞を受賞。

## 長篇詩集「新潟」

1959年新潟から北朝鮮への「帰国事業」\*第一便が出港した翌年には原稿がほぼ出来上がっていたと言われる。しかし当時詩人が属していた組織から、日本語による詩作や表現が厳しい批判にさらされ、出版は1970年になって実現した。全体が「雁木の歌」「海鳴りのなかを」「緯度が見える」の3部構成をとる壮大な叙事詩である。

\*1950年代末から1984年にかけて行われた在日朝鮮人とその家族の、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)への集団的な永住帰国または移住事業。新潟赤十字センターで渡航者の最終意思確認と手続きが行われた。

会場:砂丘館 座敷・居間・茶の間

参加料:1~3/各回800円(定員20名) 4/1,000円(定員30名)

お申し込み:電話・ファックス(025-222-2676)または  
Eメール(sakyukan@bz03.plala.or.jp)で砂丘館へ

\*ファックス・メールの方は催事名、お名前、電話番号、人数を併記してください。

## 【同時開催の催しのご案内】

新潟国際情報大学・新潟日报社 連携

金時鐘 文化講演会「詩について思うこと、考えること」

2016年9月25日(日)14:30~16:00

会場:新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス9階講堂  
(新潟市中央区上大川前通7)

定員:150名(先着順、入場券を送付)/聴講無料

協力:砂丘館

お申し込み:往復はがき、またはEメールで郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、  
「金時鐘講演会」と明記し、下記の住所・アドレスまで送る。

〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1169

新潟国際情報大学中央キャンパス宛

E-mail: chuo@nuis.ac.jp

申し込み締切:9月12日(月)必着

問合せ:新潟国際情報大学中央キャンパス TEL 025-227-7111

『新潟』に四・三事件の記憶がこのような形で組み込まれていることは、まさしく二十世紀の初頭に入って作者自身が四・三事件について公的に語り始めたことによって、ようやく私たちにも明らかになったことなのである。それまでは、テキストの気密性はあまりに高く、私たちは——少なくとも私は——その深部に足をおろし、目を届かせることが容易ではなかったのだ。

しかも『新潟』というテキストを複雑にしているのは、全編をつじて「ぼく」のメタモルフォーゼの劇が貫かれていることだ。それは一匹の「みみず」がついに「一人の男」へと「復活」を果たしていく物語だが、この「みみず」は蛭や蚕の蛹、唾蟬などに変態を遂げるだけでなく、「ぼく」の分身のようなもうひとりの人格にもしばしば姿を変えるのである。端的に言うとき金時鐘はここで、中心に置かれている「ぼく」と一見して対蹠的・対立的な同胞をも、もうひとりの「ぼく」(あるいは「あいつ」として表象している)のである。その結果、すべての登場人物が「ぼく」の部分的な人格、いわばありえた「ぼく」のひとつのありかたとして記述されるのである。

細見和之『ディアスポラを生きる詩人 金時鐘』(2011)より

## \*済州島四・三事件

1948年4月3日に在朝鮮アメリカ陸軍司令部軍政庁支配下にある南朝鮮(現在の韓国)の済州島で起こった島民の蜂起にともない、南朝鮮国防警備隊、韓国軍、韓国警察、朝鮮半島本土の右翼青年団などが1954年9月21日までの期間に引き起こした島民虐殺事件。

## 長篇詩集「新潟」をモチーフにした作品を展示

## 阪田清子展

### 対岸——循環する風景

2016年8月23日(火)~10月2日(日)

9:00~21:00

会場:砂丘館ギャラリー(蔵)ほか

観覧無料

休館日:月曜日(9/19は開館)、9/20、23

主催:砂丘館

(指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体)

## 砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1

tel./fax. 025-222-2676

sakyukan@bz03.plala.or.jp

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。  
●新潟駅からのバス:浜浦町線 C2系統又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分  
●新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を  
応援しています。

新潟あられ株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

新潟ビルサービス

創業明治11年  
丸屋本店

藤田金属

郷土の文化に親しむ会